

かごしま検定～グランドマスター試験解答例～

- 問1. 約30万年前に加久藤カルデラから噴出した加久藤火砕流の溶結凝灰岩は西田橋の橋脚、旧鹿児島刑務所の正門、尚古集成館に使われている。また、鹿児島市の名突観音、薩摩永野下丁場の観音滝近くの磨崖仏はこの溶結凝灰岩に彫られている。約10万年前に阿多カルデラから噴出した阿多火砕流の溶結凝灰岩は花尾神社の丹後の局の墓石に使われており、清泉寺磨崖仏や千手観音磨崖仏もこの溶結凝灰岩に彫られている。指宿市山川町で切り出される山川石は、福昌寺の島津斉彬をはじめとする藩主の墓石に使われている。(237字)
- 問2. 島津斉彬は、父・斉興の側室の子である久光との後継争いであるお由良騒動の末、1851年に藩主となる。斉彬は、近代化事業の発展に努め、反射炉や溶鉱炉を備えた近代工場群、集成館を創設した。また、下級武士の積極登用を行い、西郷隆盛を幕政改革の連絡役に抜擢した。1858年、志半ばで病に倒れ、弟・久光の子・忠義を次期藩主とする遺言を残して逝去した。斉彬をご祭神としているのが照国神社であり、三公像といわれる斉彬・久光・忠義の銅像が神社横に建っている。(220字)
- 問3. いずれも島津義弘の朝鮮出兵(文禄・慶長の役)に由来する。連れ帰った朝鮮人陶工集団が堅野、苗代川、龍門司三系統の窯で興したのが薩摩焼で、製品は白黒2種類に大別される。現在、最も多くの窯元が残っているのは美山(苗代川)である。吉左右踊りは義弘が最晩年を送った加治木町の伝統芸能で盆明けの8月16日に演じられる。踊り手は薩摩、朝鮮両軍に別れて進み、その周辺を紅白二匹のキツネに扮した道化役がはね回る。(197字)
- 問4. 第一次産業の占める割合が全国に比べてかなり高く、農業産出額は全国第2位(2006年)であり、内訳では畜産品で半分弱を占め、茶やかんしょ、さとうきびなどの占める割合が比較的高いところが特徴である。反対に第二次産業、特に製造業の占める割合は低く、食料品製造業、電子部品・デバイス製造業、飲料・たばこ・飼料の3業種で約70%を占めている。第三次産業は、その中で公的部門の占める割合がかなり高い点に特徴がある。(201字)
- 問5. ①高尾野 ②16 ③肥薩おれんじ ④麓 ⑤観光牛車
出水平野の荒崎休遊地などに、毎年10月中旬頃になると第1陣のツルが渡来し、2月上旬頃から北帰行を始める。出水のツルは、主にナベヅルとマナヅルで、ここ数年は、1万前後の羽数が確認されている。これだけの数のツルが人家近くで越冬するのは、世界中でも出水平野だけと言われ、ツルの一大越冬地として有名である。(149字)